第７回府中市行財政改革推進プラン検討協議会の開催結果

１　日　　時　　平成２９年１０月３日（火）午後２時～午後３時５０分

２　場　　所　　府中市役所北庁舎３階　第２会議室

３　出席委員　　５名（五十音順）

上野和憲委員、木村俊介委員、熊谷麻貴子委員、澤田浩宜委員、

曽我好男委員

４　出席職員　　田中財政担当参事、石堂財政課長兼行財政改革担当主幹、

武澤財政課主査兼行財政改革担当主査、長谷川財政課主任

５　傍 聴 者　　なし

６　内　　容　　⑴　議題

新行財政改革推進プランの素案について

⑵　その他

７　配布資料　　資料２０　府中市行財政改革推進プラン

（平成３０年度～平成３３年度）［素案］

参考１１　主要個別プランの修正内容［その２］

○事務局　ただいまから第７回府中市行財政改革推進プラン検討協議会を開催いたします。

それでは、進行につきまして、会長、よろしくお願いいたします。

○会長　それでは皆さんお忙しい中、ご出席ありがとうございます。それでは、第７回の検討協議会を開催します。初めに事務局に確認しますが、本日の傍聴の申し出はいかがでしょうか。

○事務局　本日は、傍聴を希望されている方はいらっしゃいません。

○会長　それでは次に、委員の皆さんの出席状況について、事務局からご報告をお願いします。

○事務局　本日も全ての委員さんにご出席いただいておりますので、本日の会議は有効に成立しております。

○会長　ありがとうございます。それでは、続いて本日のお手元の次第に従って議事を進めますが、初めに事務局から資料の確認をお願いします。

○事務局　それでは、確認をいたします。本日の資料は資料２０「府中市行財政改革推進プラン（平成３０年度～平成３３年度）［素案］」、参考１１「主要個別プランの修正内容［その２］」でございまして、開催通知と併わせまして事前に配付をしております。これらの資料につきまして、不足等はございませんでしょうか。それでは、資料の確認につきましては以上でございます。

○会長　それでは本日の議題に入りたいと思います。

前回までは各部局のヒアリング等を行ってきましたけれども、それを踏まえて、今日と、あと次回、２回にわたって、いよいよこの協議会からの答申の中身について、ご審議をお願いしたいと考えています。

それではまず、議題１の［素案］です。今日、用意してもらっている資料２０の素案の全般のいわゆる本体、本部に当たる部分と、それから、後半の個別プランの個票、２つありますけれども、それぞれ今日の会議の前半、後半に分けて審議をしたいと思います。

それではまず本文ですね、本編１ページから、それから１４ページまでがいわゆる本編に当たる部分ですが、この部分が一番本体の部分になりますので、事前に委員の皆さんにもお配りをして内容を見ていただいていると思いますけれども、この部分が一番中心になりますので、全体の項目で言うと、１番の「プランの概要」から４番の「進行管理」まで、全体で４つの章で成り立っていますが、４つにそれぞれ分けて、第１章は全体の概要ですけれども、２章からが実質的な本体になると思いますので、特に２章の部分の（１）から

（４）までありますが、では、１についてと、それからこの２章については（１）から（４）までをそれぞれ切った上でご審議をしていただきたいと思います。

では、事務局の方からお願いします。

○事務局　それでは、本日の議題でございます、「新行財政改革推進プランの素案」につきまして、特にこのプランの核となる部分でございます、１４ページまでの本編の内容を中心に、資料２０に基づき、説明いたします。

こちらの資料は、６月２８日に開催いたしました第３回協議会におきまして、資料１３を用いてご審議いただきました「本編の骨子（案）」を土台として、全体の構造となります章立てを行いました。しかし、その後の会議の中で頂戴したご意見やご提案などを踏まえまして、構成に一部変更を加えておりますので、はじめに、プランの全体像といたしまして、変更箇所について説明いたします。

１点目は、１１ページの「エ　市民意見」でございまして、こちらは第３回協議会での委員さんからご提案を頂きました「市民参加の外部評価の意見反映」という趣旨で新設したものでございます。２点目は、１４ページ下段の「(2)　進行管理の強化」でございまして、こちらは前回協議会で委員さんからご意見をいただきました「実質公債費比率の目標堅持」等に対応するべく、新設いたしました。このほか、今回の行革プランが目指す方向性といたしまして、短期的な収支均衡よりも中・長期的な体制整備を重視する旨を示すために、１２ページに「(4)　将来展望」という項目を新たに設けております。

変更箇所の概要は以上でございまして、それでは、各項目の内容につきまして、順次説明いたします。恐れ入りますが、資料の２ページをお開き願います。

こちらの『１　行財政改革推進プランの概要』の「(1)　策定趣旨」でございますが、「この行財政改革推進プランは、総合計画を下支えするための行財政運営分野の個別計画と位置付けて」いるほか、「この行財政改革推進プランが有効に機能し、プランに掲げる取組を推進することによって、総合計画に体系付けている各種の施策や事務事業を円滑に実施することができる体制の維持を目指す」という策定の趣旨を記載しております。

続きまして「(2)　施策体系」でございますが、前行財政改革推進プランと同様に、「総合計画後期基本計画における行財政運営分野の４つの基本施策と８つの施策を土台としつつ、前行財政改革推進プランから引き継ぐ形で３つの独自取組を加えて、合計で１１の取組項目で構成して」いる旨を示しております。

続いて３ページに移りまして、「(3)　計画期間」につきましては、「第６次総合計画後期

基本計画と合致するように、平成３０年度から平成３３年度までの４年間」としております。

１章につきましては以上でございます。

○会長　一旦ここで切りましょう。では、今説明してもらった２ページ、３ページが１の（１）ということで、１番の１の（１）から（３）まで、全体の概要について触れられているところですけれども、この点について、実質的な内容や、あるいは表現について、何かご質問やご意見があればお願いしたいと思います。

私の方から１点。３ページの（３）の計画期間で表がありますけれども、ここで「前行財政改革推進プラン」という表現がありますね。この表現が以下本文のところにも頻出してくるのですが、ちょっと日本語の表現として「前行財政改革推進プラン」というのは、ちょっとあまり使わない表現だと思うのですけれども、これは「前期行財政改革推進プラン」だとまずいですか。

○事務局　参考になるかどうか分かりませんが、総合計画の方を例にとりますと、「前期基本計画」、「後期基本計画」という形で、明確に区分をしているのですけれども、ちょっと今まで行財政改革推進プランにつきましては、上段に基本構想という計画があって、その下に前期、後期基本計画という形をとっている総合計画のように、明確に前期、後期という形で表現をしてきたことがなかったことから、現在の表記にしているという状況です。

○会長　今、平成２９年度も推進中なので、それで本文の中で「前プラン」、「前プラン」と頻出してくると、ちょっと違和感を感じるのですけれども、だから、「前期」で差し支えがなければ、「前期行財政改革推進プラン」という表現でいいように思うのですけれども、どうですか。

○副会長　であれば、現行という、現在まだ期間中ですので、「現行プラン」とかそういう言い方でもいいのかなと思います。

○会長　そうですね。それもあると思うのですけれども、基本計画と平仄があうので、前期、後期の方が分かりやすいのかなという気もするのですが。いかがでしょうか。

○事務局　今、会長がおっしゃった前期という表現も１つの案だと思いますし、また、副会長さんがおっしゃった「現」とか「現行」という表現でも分かりやすいかなというところもありまして、ちょっとこの辺りにつきましては、事務局の方で持ち帰って検討したいと思います。

○会長　表現ベースの話ですけれども。他に何かご質問・ご意見はおありでしょうか。よ

ろしいですか。では、とりあえず先へ進みたいと思います。

２の（１）、２のどこまで分けるというのかな。２は（１）と（２）までお願いします。

○事務局　では、続きまして、４ページ以降の大きな章立ての２つ目でございます『２　策定に当たって』につきましては、策定に当たって検討・留意した内容や基本的な考え方といたしまして、４つの項目を掲げております。

はじめに、「(1)　総合計画との連動」でございますが、「総合計画を下支えするための個別計画という位置付けを踏まえて、後期基本計画との連動を図ることが不可欠」という認識の下、「施策体系及び計画期間を後期基本計画と合致させることはもとより」、１５ページ以降の「Ⅱ　個別プラン編」におきましても、「後期基本計画に倣って「めざす姿」や「現状と課題」という項目を追加したほか、「指標」の現状値や目標値についても、後期基本計画との整合性に留意して設定」した旨を記載しております。

続いて５ページに移りまして、「(2)　過去の取組と前行財政改革推進プランの進捗状況の検証」でございますが、「平成１９年度以前の方策は、国からの要請を色濃く反映していた」ものの、「その後は本市の総合計画を着実に推進するための個別計画という位置付けに変更し、広報、広聴、市民協働など、行財政運営に関する幅広い項目を含んだ計画として集約」してきたという過去の経緯を示しております。なお、こちらの表１は第１回協議会でお配りした資料６を加工したものでございます。続きまして、６ページでございますが、こちらでは「前行財政改革推進プランの進捗状況については、適切に検証し、新しい行財政改革推進プランの策定に向けた情報として活用する」という観点から、平成２８年度末時点の進捗状況や効果額を掲載しております。さらに、７ページにかけまして、「前行財政改革推進プランの計画期間が終了する平成２９年度末時点においても達成が困難と見込まれた」個別取組については、「新しい行財政改革推進プランにも引き続き掲載し、取組を継続」する旨を掲げております。なお、こちらの表２から表４は、第２回協議会でお配りした資料８・９及び参考資料４の内容をまとめたものでございます。

以上でございます。

○会長　ありがとうございました。それでは、今のところを「策定に当たって」ということで、これから推進していくものの、いわゆる後期の推進プランの前提に当たるような、そういう客観的なことを書いてある部分になります。この点について、４ページから７ページまでですが、ご質問やご意見があれば、お願いしたいと思います。それで、特に７ページの表の４で、達成が困難だということが判明したというのが３項目あって、それが表

の右側の遅れた理由というのを明記してほしいと私の方からお願いしましてこれを書いてもらいましたが。この点についても委員の皆さんにも見ていただいて、こういう理由で、要は合理的理由になっているだろうかということも含めてちょっと見ていただいて、ご質問やご意見があればいただきたいと思います。

私の方で伺いますが、この表の４のまさに今の点の一番上の欄の３－７－１の「公文書の効率的な管理方法」で、「新しいファイリングシステムの導入を模索したことからおくれが生じた」というのは、これはもうちょっと具体的に言うとどういうことなのですか。ファイリングシステムの導入を模索したというのは。

○事務局　こちらでございますけれども、システムを用いて電子化をする前に、紙ベースの段階で別のファイリングシステムというものの導入を検討いたしまして、管理の仕方の効率化を図るですとか、文章量の削減を図った上で、その後に電子化をしようということを一時検討したという経緯があります。しかしながら、こちらに記載させていただいたとおり、やはり費用ですとか、現状のやり方を変えることによる事務負担の増加が実際に検討を始めてみると判明したということで、最終的な結論といたしましては、そういうプロセスを踏むということは取りやめたという経緯です。

○会長　ここでその言葉の「ファイリングシステム」というのは、要は文書の分類の方法という意味ですか。

○事務局　はい。今、会長がおっしゃったとおりでございまして、特に電子化した機械のシステムというものではなくて、紙ベースのまま分類法ですとか、整理の仕組みを現行の仕方から改めるという意味で、こういったことを一時検討していたことが４年間の間にあったという状況でございます。

○会長　他に何か委員の方々からご質問、どういうご質問でも結構です。あるいはご意見があれば、お願いします。あと、では、あわせて次の項目の４－１０－８の「平成２９年度中に施設条例の改正を行い」というのは、これは予定どおりできそうなのですか。

○事務局　まだ、こちらの方の条例案の上程はしていないのですけれども、予定では次の第４回定例会、またはその次の第１回定例会等で今年度中には対応したいと担当の方からは聞いております。

○会長　１２月か３月の議会で出すということですね。何かございますか。

では、とりあえず次へ行きましょうか。それでは次（３）をお願いします。

○事務局　続きまして、７ページ下段の「(3)　前行財政改革推進プラン策定後の変化等の

捕捉」でございますが、「前行財政改革推進プランを策定した平成２６年以降の様々な変化を的確に捉えて、個別取組の新設等を検討すること」が重要との認識に立ち、８ページから１２ページにかけまして、４つの細項目を立てております。

はじめに、８ページの「ア　人口構造」でございますが、こちらは第３回協議会でお示しいたしました資料１０の内容を図３及び表５として掲載し、「平成３３年４月１日の総人口は２５９，８７０人で、平成２９年４月１日と比較して１，９６８人（０．７６％）増加するという結果」や「年齢層別の構成比に着目すると、「年少人口」は、今年度との比較で－０．２％、－０．３％、－０．４％、－０．６％と年を追う毎に割合が減少する一方で、「高齢者人口」の構成比は、＋０．１％、＋０．４％、＋０．７％、＋０．９％と増加の一途を辿る見込み」であることを示しております。

続いて９ページに移りまして、「イ　財政状況」でございますが、こちらは第３回協議会におきまして資料１２としてお示しした際には、投資的経費の試算が確定しておりませんでしたが、その後に確定した財政見通しにつきまして、後期基本計画からの引用という形で表６に示しております。なお、投資的経費につきましては、「平成３２年度に顕著に増大していますが、これは庁舎建設事業に関する経費が増大するためであり、この事業は従来から本市の主要事業として位置付けていることから、従来から積み立てている基金を充当するとともに市債の発行により負担の平準化を図りつつ事業を推進していく」旨を明記しております。

続いて１０ページに移りまして、「ウ　国の動向」でございますが、国から「推奨されている項目の中でも取組の方向性などが本市の実情に合致しているものについては積極的に対応し、行財政改革の一環として公共サービスの高度化や効率化を目指す」旨を掲げた上で、第２回協議会で参考資料５としてお配りいたしました総務大臣からの助言通知と１５ページ以降の個別プランの対応関係につきまして、表７にまとめております。

続いて１１ページに移りまして、「エ　市民意見」でございますが、「この行財政改革推進プランの策定に当たっても、総合計画市民検討会議から提示された行財政運営にまつわる論点については、可能な限り対応できるように配慮して、個別プランを練り上げて」いる旨を明記し、具体的な論点と１５ページ以降の個別プランの対応関係を表８にまとめております。

以上でございます。

○会長　ありがとうございました。それでは、今説明してもらったのが７ページから１１

ページまでですね。やはり財政的な面で言う、一番本体のところがこちらの記述になりますけれども、これらの点についてご質問やご意見があれば、お願いしたいと思います。

それでは、ちょっとまた口火を切る意味で先に、意見を言わせてもらいますと、最初の８ページの「人口構造」のところで、増えるというところまでで終わっているのですけれども、後ろの１２ページの方だと、３８年度から人口が減るということが書いてあるので、少し重複になりますけれども、８ページの方も何か増えるというところでブツッと終わるのではなくて、「なお、その後、平成３８年度には人口はピークを迎え、減少に転じることが見込まれる」とか、そこまで書いた方がいいと思います。

それから、併わせて言うと、同じ８ページの今も説明してくれたのですが、下の段の「表５のとおり」という、表の説明がありますけれども、ここでー０．２％云々という、ここの部分は表を見ればわかるので、この数字の部分ですね。だから、今年度との比較で年を追うごとに割合が減少する。それから、６５歳以上の高齢者人口の構成比は増加の一途をたどると数字は抜いても、抜いた方が文章としてはわかりやすいのではないかなと思いますが。こういう感じで、委員の皆さんからも何か少し気になる点とか、分かりづらい点等があれば、ご意見をいただきたいと思います。

○委員　１ついいですか。９ページのところで、第６次の府中市総合計画後期基本計画から引用してきましたということで、３０年度から３３年度の見通しということで、先ほどの説明では投資経費のところがほぼ確定したということなのですけれども、前回までに色々各課さんとセッションを持たせていただいたところを踏まえた削減みたいなところとか、増収みたいなところは、この中には含まれていないという想定になりますか。

○事務局　こちらの表６と後段の個別プランの中で、歳入確保ですとか、削減の効果額との関係でございますけれども、現時点で全ての額をこの表の中に盛り込んでいるシミュレーションの中で加味している状況ではございません。ただ、一方で現時点でも削減や歳入確保のある程度見通しが立っているものについては、この中に入れているものもございます。

例を申し上げますと、前回までの審議では上がっていないのですけれども、競走事業の方で繰り入れ等々があるのですけれども、こちらは後段の５１ページに競走事業会計というのがございまして、色々努力をして担当課としては目標値は５億円頑張って入れたいという話がございまして、一応現在のこの財政見通しのシミュレーションの中にはそこの５億の部分については入れている推計になっております。ただ、先ほどの一番初めに申し上

げましたように、まだこういう計画としてやっていきたい、取り組んでいきたいというところはあるのですが、具体的な金額までこういう財政の見通しに入れられるほど精度が高くないものについては、現時点では入っておりません。この表６の一番下の削減目標額は、そういった色々な努力を計画策定後の実施段階で積み重ねながら解消していきたいとは考えております。

○会長　今、委員が言われたことは大変重要なことだと思うのですね。例えば、歳入と歳出に分けて、歳入の面でほかにヒアリングをやったわけで、そうすると、徴収とか色々、税の徴収とか色々話も聞いたわけですが、それを踏まえて原課の方で何かこういうふうに見直したいとか、ヒアリング後の何か軌道修正とか、そういうものというのはないのですか。

○事務局　タイミング的にはこちらの総合計画の案が出てきたのが８月という状況でございまして、具体的にこちらでご審議いただいた８月後半から９月にかけてという状況でございますので、今回のこちらの協議会でのご意見を踏まえて、こちらのシミュレーションの数字がダイレクトに動いたというところは正直なところないかなと思っております。ただ、ご意見をいただいた内容につきましては、こちらの方でもここに反映はできないとしても、今後の目標として、例えば、どういうものが候補として挙がっているのか、前回の会議の中で各個別プランについて歳出削減の見込みがあるもの、歳入確保の見込みがあるものというのは一応○印でお示しはしているのですけれども、その想定の額まではちょっと現在のところ把握していないのですが、このプランをまとめていく上ではそういった想定も必要と思っておりますので、各該当する個別プランの担当の方には確認をして、準備はしたいと思っています。

○会長　よろしいでしょうか。他に何かございませんでしょうか。特にこの部分が割と中心的になりますね。

○委員　財政状況のところなのですけれども、前期には４年間で８８億円の歳出超過、今回は４７億円と見込まれているわけですけれども、その辺のところのもう少し分析といいますか、その辺のところを盛り込んだ方がいいのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局　委員さんがおっしゃるとおり、今こちらで全体の合計として前期が８８億だったということと、今回４７億とがあるのですけれども、特に前期がどういうものだったかという分析の記述は書いていないということと、あと、合計として最終的な結果は４７億

になるのですが、１つ１つの試算につきましては、第３回会議の中では投資的経費以外の部分については説明はしたのですけれども、この計画の中には入っておりません。例えば、総合計画ですと、財政見通しの次のページに具体的に歳入はこういう試算をしています、歳出の各項目はこういう試算をしておりますという別表を付けておりますので、そういった形で詳しく試算の内訳といいますか、前提条件をまとめるという対応は可能ではないかと思います。

○会長　今のは言っておられていることとは合っていますか。

○委員　いや、ここの９ページの「なお」以下のところで、８８億円だったけれども、今回は４７億円とあっさり書いてあるので、ここのところをもう少し何か分析的なところを、そんな細かいところまではいいと思うのですけれども、大きな点でどういったところの歳入が増えたとか、あるいは歳出のところを減らしたのかいうところを、もうちょっとできないかなと。なかなか難しいとは思うのですけれども、これを見ただけだとちょっと。

○事務局　では今、先程申し上げました細かい試算を全部つけるという形ではなくて、それに対する分析的な部分を少し文章で追記して、分かりやすくするという趣旨で文章の修正を検討してみたいと思います。ありがとうございます。

○委員　今のところで、８８億円の計画のところですね。これ計画の見通しの８８億円と、今回の見通しの４７億円と飛んでしまっているのですが、多分その間に実績があると思うので、実績はかなりプラスで、結果的には８８億円がプラスの方になったということだと思うのですけれども、そこのちょっと表現がおかしいと思うのですが、それを１段階入れていただくのが分かりやすいかなと思います。

○事務局　今、委員さんのおっしゃるとおり、当初は４年間で８８億円ということだったのですけれども、実際にふたを開けてみますと、２６年度以降、今まで一度も不足が生じたことはございませんので、実際の経緯といたしましては、過去の会議で申し上げました市税の伸びですとか、その他様々な要因がありましたけれども、その点も分析的な表現の内容の１つとして取り入れていけるように検討したいと思います。ありがとうございます。

○会長　表の６というのも少し限界というか、問題は含んでいると思うのですが、要は投資的経費のところは割と積み上げ的な、その年度の予想される積み上げが反映されていると思うのですけれども、例えば、人件費のところは、はっきり言うと同額で置いているということで、実際は職員課の方は定員を３０人減らすことを目標に持っているわけですね。そこが本来であれば、具体のスケジュールも反映されて、３０年から３３年度までのいず

れかの時期にマイナス３０という職員数が減って、そうすると、１人１，０００万としたら全体で３億がどこかで減っていくということなのでしょうけれども、そこはちょっと反映できていないというところがあるということなのですか。そこでちょっと積み上げ的な反映をやっているところと、ちょっとそこまではできていないところがあるということですか。

○事務局　先ほど委員さんの方からご質問いただいた部分と近いと思うのですけれども、会長がおっしゃるとおり、実際に積み上げがある程度の精度で確認できていて、そして、財政見通しに入れていっている内容と、今発言がございましたように、一応目標は３０人ということで掲げておりますけれども、具体的にその年度まで区切ってきっちりと計画を立てていない定員管理の部分のように、現時点でこの財政見通しの中に反映できていない項目というのはございます。そちらの、後者の内容については、先ほども申し上げましたが、実際には入っていないのですけれども、もし、そういったものが次の４年間の間にできれば、この削減目標額を圧縮する方向の寄与ができるのではないかとは考えています。

○会長　少ししょうがないかなという感じですかね。

○委員　この表が今後４年間の財政状況を俯瞰する資料として入ってくる。この中でという、今、会長がおっしゃられたとおり、人件費減ってないじやないという話になると、何かちょっと違和感を感じるのですけれども。

○会長　そうですね。だから、先ほど委員も言われたように、もう少し分かりやすい、せめて色々注記とかそういう表現で少しでも分かりやすくしてもらうような、そういうちょっと工夫をしてもらえたらと思います。

　他にございますか。それと、私の方でちょっと事務局に再度チェックをお願いしている点がありまして、表の８というのがあります。１１ページの表の８ですが、「市民検討会議から提示された論点」というところで、こちらの表現が、こちらの指摘されたことに対してちゃんと受けとめて反映していますよというのが右側の個別プランの部分ということのようですけれども。例えば、上から９行目で「一定期間経過したら見直す時のアセスメントの導入」ということに対して、右側で「内部評価制度に則した事務事業の最適化の推進」とこうなって、対応していますよということですが、本来的な、本当にその時のアセスメントという、事業が停滞したものを見直すという、そういう要望があっているのかどうか。要するに、停滞したものを、１０年ぐらい進んでいないものを見直すという意味になるので、市民検討会議の意見の趣旨が本当にそういうことだったのか。それから、もし本当に

そういうことだとすると、１０年ぐらい停滞しているやつを直すということを、本当に３０ページの方で書いているのかどうかという、ちゃんと対応しているかどうかということの確認をお願いしています。

それから、それと同じ話がその下、７行目下の「職員の職員採用の年齢制限を引き上げることや、専門家の中途採用の拡大の検討」というのが、どちらかというと、人材を多様化するということで、増やす方向の提言だとすると、それが右側の「計画的な定員の管理」という、こちらはスリム化のことを指している部分なので、ちゃんと対応していますかということを確認してもらうということをお願いをしています。それはまたこれから確認してもらうということでいいですか。

○事務局　事前にご連絡いただいた今の２件につきましては、それぞれの担当課にもちょっと確認をしたいと思います。１点目のアセスメントについて、会長がおっしゃったように、本当に凍結した事業等を動かすという意味なのか、それとも、長期間やっている、継続的に同じやり方でやっているものを見直す機会、そういったものを見直すかどうかという評価のテーブルに上げる機会という意味であれば対応していると思うのですけれども、前者のまさにその言葉のとおりからですと、確かにちょっと対応が難しいかなということですので、そこは確認をして、もし、対応していないということであれば、削除という形になるかと思います。

２点目の職員課の方の話でございますけれども、こちらは３８ページの実施内容のところの一番最後の文章が若干そういうニュアンスで、「正規職員の採用に当たっては」というところが書いてある可能性があるのですが、ここも本当にそこまで答えているかどうかというのは、担当課とも調整をいたしまして、対応しきれていないという場合は、この行から落とすというようなところで、持ち帰らせていただきたいと思います。

○会長　他にございますか。よろしいでしょうか。

では、とりあえずまた次へ進めたいと思います。（４）お願いします。

○事務局　続きまして、「(4)　行財政改革の将来展望」でございますが、ここでは、平成３３年度までの計画期間の先を見据えた体制整備等につきまして、記載しております。まず、将来人口につきまして、「計画期間の４年間では行財政運営に大幅な影響を与えるほどの人口の変動は見込まれ」ないものの、「将来に向けては、本市でも平成３８年度をピークとして総人口が減少に転じ、その後は総人口及び生産年齢人口割合が減少する一方で、高齢者人口の割合は、平成４２年度には２４．７％、平成４７年度には２７．５％まで増加

するという推計結果が得られて」いることから、「生産年齢人口の減少に伴う市税の低減のほか、高齢者人口の増加に起因する社会保障関連経費の増大が今以上のペースで進む」という認識を示しております。次に、公共施設及び都市基盤施設に関する視点といたしまして、「人口の増加が急速に進んだ昭和４０年代から５０年代に掛けて集中的に整備しており、今後は学校施設などを中心として一斉に更新や大規模改修が必要な時期を迎える」ことから、将来に向けては、「財政の健全性を維持していく上では、留意して対応に当たることが不可欠」と記しております。さらに、財政見通しにつきまして、「単年度の削減目標額は、最大となる平成３３年度においても▲１６億円となっており、これは、毎年▲４億円の経常的経費を削減することができれば、達成が可能な水準」であるものの、「１０年、２０年先の市政を見据えた際には、人口構造の変化や公共施設の老朽化などの影響が相まって、単年度の収支不足額が更に増大し、抜本的な対応が避けられない」との見込を記載しております。これらの要素を考慮した将来展望といたしまして、「この行財政改革推進プランでは、従来から取り組んできた国民健康保険制度や介護保険制度における適正給付及び歳入確保の強化、公共施設マネジメントやインフラマネジメントに関する取組の推進などに加えて、ＰＰＰの視点を取り入れた公共施設の整備や市有財産の活用、業務量調査に基づく民間委託の拡大、民営化の促進と連動した定員管理の強化、前期の計画期間中に定めた方針に基づく補助金の適正化に向けた総点検の実施など、将来を見据えた行財政運営の仕組み作りにかかわる項目を掲げて」おり、「これらの新たな取組を軌道に乗せることにより、この行財政改革推進プランの計画期間としている平成３３年度までの４年間の間に、中長期的な収支不足等の課題にも対応できる体制を更に強化し、平成３４年度以降の抜本的な課題解決に向けた準備を進める」としております。以上でございます。

○会長　それでは、ここについては将来の進め方の内容が書かれているわけですが、この内容についてご質問・ご意見があれば、お願いしたいと思います。

○委員　よろしいですか。真ん中の「他方で」のところの文章なのですけれども、今回３３年度で数字が変わるかどうかはちょっと置いといて、マイナス１６億円で、これは毎年４億円やると達成可能という、このところは必要なのですか。将来の話をしているので、将来大幅に今の１６億円どころではなくて、このままだともっと増えてしまうのでという話をしているので、１６億円が達成可能かどうかという話はここでは要らないのではないかなと思いましたので、どうでしょうか。

○事務局　こちらの内容につきましては、その後にあります１０年、２０年先の話をメー

ンに訴えたいというところでございますので、確かに絶対に必要だということではないかもしれないので、ちょっとこちらの表現はなくすですとか、簡潔にするという方向で検討したいと思います。ありがとうございます。

○会長　そこは私も賛成です。他に何かございますか。よろしいですか。

それでは次の３章、４章ですか。こちらをお願いします。

○事務局　続きまして、１３ページが大きな章立ての３つ目の『３　主要な個別プラン』でございまして、「新たなチャレンジとして開始する新規性のほか、上位計画である第６次総合計画後期基本計画の重点プロジェクトとの関連性や、歳出削減や歳入増加の見込みなどを総合的に勘案」し、「特に重要性が高く具体性のある項目を主要な個別プランとして掲げる」旨を明記しております。具体的には、第４回協議会から第６階協議会にかけてご審議いただきました個別プランの中から２０プランを選定し、表９に掲げております。

最後に、１４ページが大きな章立ての４つ目の『４　進行管理』でございます。

はじめに、「(1)　進行管理の体制」といたしまして、「この行財政改革推進プランについては、行財政改革推進本部において進行管理を行い、各個別プランの進捗状況については、毎年度集約を行い、市のホームページで公表」していく旨を記載しております。さらに、「行財改革にかかわる各種の取組の中でも、長期的な市政運営に大きな影響を与える公共施設マネジメント及びインフラマネジメントについては、この行財政改革推進プランと同様に行財政改革推進本部で進行管理を行い、特に注力して推進」する旨を明記しております。

最後に、「(2)　進行管理の強化」でございますが、「進行管理の客観性を高め、ＰＤＣＡサイクルの質の強化を図ることを目指して、この行財政改革推進プランでは、新たな試みとして、可能な限り個別プラン毎に具体的な指標と平成３３年度の目標値を設定」したほか、「行財政運営における「人・物・金」にかかわる指標」といたしまして、職員数、公共施設の延べ床面積、経常収支比率など、５つの総合指標を表１０に掲載しております。

以上でございます。

○会長　ありがとうございました。それでは今の３番、４番のところは、今後の進め方について書いてありますけれども、これらについてご質問やご意見があれば、お願いします。

あとは先ほどちょっと申し忘れましたけれども、先ほどの１２ページのところで、下から６行目ですかね。ここに補助金の適正化の総点検をやっていくと、これは入れてもらったわけですね。それから、補助金の見直しの反映というのはここで入れてもらっていると

いうことです。

○委員　質問いいですか。１４ページの表１０のところの「公共施設の市民１人当たり延べ床面積」で、現状値が１人当り２．４８、これが２．５８ということで増えるわけですけれども、これは公共施設を増やすという、そういう意味合いなのですか。

○事務局　ちょっと後段の個別プランの方の指標から持ってきているので、全体で増えるものを抑制しつつという形ではあるのですが、恐らく現時点で計画に載っているもの等を織り込むと、この数字が若干増えるという形ではないかと思っております。ただ、ちょっと済みません。そこの中身についてはただ今情報を持っておりませんので、確認をして、次回までにここの具体的な中身のことについて調べて対応させていただければと思います。

○会長　人口が減るのとの兼ね合いですね。

○事務局　基本的に公共施設マネジメントは、市民１人当りの面積を増やさない、維持するというのがベースの考え方になっています。ここで再開発の関係で新たな施設ができたりしましたけれども、一方で別の施設を廃止することで、既存の施設の面積を削減するという取組をやっておりますので、多少年度によっての誤差は生じますけれども、ベースとなる考え方は１人当りの面積を、たとえ施設が増えても別の施設を廃止等することで維持をするという考え方になっております。

○会長　あれは何か計画といいますか､新しい目標値みたいなものは立てなかったですか。おととしにモデル事業でファシリティマネジメントの見直しをというのを検討しましたね。それで、新しい目標値みたいなのを、今おっしゃった１人当りを増やさないという新しい目標値を設定しているのであれば、それを反映させた方がいいと思います。

○事務局　一応、公共施設のマネジメントの計画の方の第２次プランということで、同じ３０年度以降の計画の策定の準備を進めておりますので、そちらの方の数字から拾ったつもりなのですが、もう一度中身は確認をさせていただきますけれども、そちらも同じ来年度からの４年間の計画期間で計画を更新する予定と聞いておりますので、そちらの数字等につきましては公共施設マネジメントの計画の方と合うように調整をしたいと思います。

○会長　よろしいでしょうか。

○委員　分かりました。

○委員　いいですか。

○会長　はい。

○委員　今まで府中市の人口の年齢別の構成とかを聞いていたのですけれども、府中市の

職員の年齢構成というのは、この職員数の全体の中で分析された上でのものでしょうか。この目標値の人数というか、この人数になった時にどうなるのかという、再任用されたり、定年退職者の再任用とかされているのでしょうけれども、だんだん団塊の世代もみんなそれでも少なくなっていると思うので、正しい何か年齢構成比というのは維持されていくのかなというのがちょっと。企業などの場合は、成長している企業はどんどん成長していくから、それを吸収して、それでヒエラルキーになるので、それで、ある時成長が止まるとリストラとか、それから、よその子会社に人をあれしてとか色々やっていくのですけれども、年齢構成の管理みたいなものはどうされているのかなとちょっと思ったのですけれども。

○事務局　具体的な個別プランで申しますと、３８ページの「計画的な定員の管理」のところが該当いたします。こちらの主な実施内容やスケジュールを見ますと、具体的に民営化等に伴う職員の減と書いているのですが、実施内容のこの一番最後の１行で、併わせて正規職員の採用に当たっては、退職者等の経験年数や年齢等のバランスに考慮した採用計画を立案するというところがございますので、担当課の方では全体の現在の職員の年齢構成ですとか、そのバランス、または定年なり、そういう年数等はシミュレーションをした上で検討していると聞いております。

○会長　現状で言うと、どうなのでしょうか。集中改革プランの時にずっと新規採用を抑えてきているので、正規職員については高齢層がぐっと増えていて、非正規職員が増えているということが続いているのであれば、かなり今、委員がご質問されたように、高齢層の方に定数としては偏っているのではないかと思いますけれども、そこはどうなのですか。

○事務局　具体的な数字、何歳が何人ぐらいというのはちょっと今手元にはないのですけれども、過去に今の年齢で言いますと５０歳代ぐらいの職員の採用で、毎年採用をしていなかった時期等もございますので、本市におきましては、必ずしも今の定年に近い年齢の職員が多いという状況ではないと思います。それよりもむしろここ１０年ぐらいの方は採用を見合わせた年度がなく、ある程度の規模で採ってきているという状況だと思います。ただ、前回の職員課の方の担当の答えのとおり、普通退職等もありますので、定年とは違う理由で職員数の増減というのはあるかと思いますけれども、全体の傾向としてはそのような状況だと思います。

○委員　活力がなくなってしまうから、若い人が減ってくると。

○委員　表の９なのですけれども、３の取組８の（１）基幹システムの最適化による事務

作業の効率化及びコストの削減ということで書いてありますね。これは多分前回の時にこれ関連のご質問をした時に、ここの部分についてはどちらかというと、さっきの言い方で言うと、前期行財政改革の時にほぼ達成しているので、今期のところは全くないとは言わないけれども、比重的にちょっとこれによる効果は下がりますみたいなご回答を確か事務局からいただいた記憶があるのですけれども。それはもし合っているとしたら、敢えてここの主要な個別プランに挙げられているところを教えていただいてもいいですか。

○事務局　今、委員からお話のあった、ページで言いますと４３ページの個別プランの部分で、確かに前回までの議論の中で基幹システムの移行につきましては、２６年度から２９年度の現計画期間中が主に７システムまで移行していて、残りは４システムですということで、効果額が若干下がるというお話と、もう１点、この時期がちょうどそのシステムの切り替えが３１年度から３２年度に替わる辺りということで、削減見込額が１年先であれば試算できるのですけれども、現時点でちょっと幾らという金額までは出せないということを担当課の方のお答えとしてお伝えしていた状況でございます。

　ただ、額の規模が少なくなるというところはあるのですけれども、効率化という観点、歳出削減という観点につきましては、この計画実施中においてそういう効果が見込まれることから、一応主要という取り扱いは外していないといいますか、主要な個別プランという整理を行ったという経緯でございます。

○会長　ただ、今の点は、実際の後期の節減の効果額を示してもらえますか。要するに、委員が言われたように、今回の後期の個票にまでつける意味があるかどうかということです。それだけの重みがあるのかどうかということなので、もうちょっと定量的な説明をしていただきたいと思います。

○事務局　今申し上げたこちらの４３ページのスケジュール欄にあるのですけれども、３２年度から次のシステムの更新の時期を迎えるということで、担当課の予定といたしましては、現時点で新しい基幹システムの方に移行ができていなかった４システムを移行させたい。それに伴いまして、色々な経費の削減というのが総合的には見込まれるだろうという提案となっております。

　ただ、現時点でこのシステムの細かい仕様ですとか、内容が詰まっているかという、スケジュール感の問題になってしまうのですけれども、ちょうど来年度の夏頃に、翌３１年度のシステム移行に関わる色々な精査をするという予算要求等のスケジュールがありまして、現時点で、例えば、全体的な経費が幾ら削減されるような細かい額までは出しにくい、

出せない状況だという回答だったかと思います。

○会長　次回もう１回審議をしましょう。もうちょっと可能な範囲で定量的な説明をしてもらって、それでここに個別の個票として載せるに値するかどうかということを決めるということでもいいのではないかと思いますが。事務局の方はどうですか。

○事務局　本件は、項目名の中にコストの削減まで入っているのですが、今までの担当課の説明だと、この「及びコストの削減」とまで言うのは厳しいかもしれないなと思います。あと中身についても現在担当課の方で、今後進行管理の中で効果額を出してくることは可能だけれども、現時点ではかなり厳しいという話もありますので、そうした中であえてここの主要なレベルにまで引き上げて載せるほどかどうかというのは、確かに要検討なのだろうと思われますので、検討させていただければと思います。

○会長　よろしいでしょうか。

○委員　１点だけいいですか。今度は取組、２の経営的視点に立った市政運営の取組の方の（１）の「公共施設マネジメントの視点による公共施設の最適化」ということで、ごめんなさい。これ、先走って後ろの３１ページの「現状と課題」というところを拝見すると、真ん中の中ほどぐらいに、「依然として更新費用の不足が見込まれる」と書いてあるのですよ。これは、この前期の行財政改革の目標を下回っている課題なのかどうなのかというところとか、あと、先ほど会長が申し上げた、前回のモデル事業のところで、府中市駅から５００メートル圏内と、あと学校施設というところの２つやったと思うので、今回この間のところでふれあい会館から移ってふれあい会館は潰しますとかという話で、実際にはアクションが進んでいるようなので、そこのところを含めて、この公共施設のマネジメントをやりますというだけではなくて、もうそろそろ数字的なところがついてきてもいいのかなという気がちょっと素人的で申しわけないのですけれども、感じたのですけれども、いかがでしょうか。

○事務局　こちらの公共施設マネジメントに関しましては、先ほどお答えさせていただきましたとおり、別途個別計画等を持っておりまして、それがちょうど第１次が今年度で終わって、来年度から第２次のプランに切り替わるということでございます。現時点でちょうどその第２次プランの案の書き込み等がされている状況でございます。この中で前期の４年間、２９年度までの４年間の取組といたしまして、具体的に床面積がどうだったか、実際の推移はどうだったかという数字ですとか、またモデル事業として掲げておりました１つ目、２つ目の進捗等については、整理されているといいますか、検証をした上で次の

第２次プランに進んでいるという状況でございます。

ただ、こちらの２－５－１の行革プランの１ページ分を、ちょうど別の計画の中でまさに１冊にして細かい計画の過去の経緯ですとか、進捗状況の確認、進行管理も含めて実施しているということで、位置付けとしては主要なのですけれども、ちょっと過去３回の審議の中からは外させていただいたという経緯でございます。

○会長　これも委員が言われるように、まさに行革の観点を即した取組で、推進プランをつくるのに相当力を注いでやったので、やはりそれを反映させられるのであれば、極力反映させるべきだと思いますので、ちょっとこれもやはり定量的な内容は可能な範囲で盛り込めるのであれば、盛り込んだ方が適当だと思いますから、そこはちょっとまたこれも次回用意してもらえませんか。

○事務局　こちらの３１ページの記載内容をもう少し定量的な数字を入れて、修正をというイメージですか。

○会長　はい。

○事務局　担当課と調整をして、また次回説明いたします。

○委員　不足と見込まれるということは、何かしら数値的な目標があって、現実的な値があるということでこういう記述が生まれると思うので、ちょっとそこを出していただけると非常にありがたい。

○事務局　その点については分析や検証は担当課の方でしていると思いますので、分かりやすいような追記ができるかどうか検討してみます。ありがとうございます。

○会長　他にございますか。それでは今個別プランの話も少し入っていますので、それで、１４ページまでのところで何かご質問・ご意見があればいただきたいと思いますが。特によろしいようであれば、個別プランの話に入りたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは個別プランの方に入ることとして、これも４つあるので、それぞれ切って、それぞれについて前回までの議論を踏まえて修正した点があれば、そのことも含めて事務局の方から説明をお願いします。

○事務局　それでは、前回の協議会でご審議いただきました主要な個別プランの修正内容等にきまして、説明いたします。恐れ入りますが、参考資料１１「主要個別プランの修正内容［その２］」をご覧ください。

はじめに、１ページのプラン番号１－３－３「地域で支えあう仕組みづくり　②自主防災連絡会」でございますが、こちらは「参加する自治会等を増やしていくことについても

工夫していった方が良い」とのご意見をいただきましたので、「実施内容」欄及び「スケジュール」欄に追記をしております。このほか、「指標」の「現状値」欄につきまして、前回の資料では「調査中」としておりましたが、ここで集計結果がまとまりましたので、「８．１４％」に修正しております。１に関する個別プランの修正につきましては以上でございます。

○会長　ありがとうございました。それでは、まずこの個別プランの１章に当たる１５ページから２６ページまでのものですね。これにつきまして、何かご質問やご意見があれば、お願いをしたいと思います。

　また口火を切る意味で私の方から、１６ページの１－１－１なのですが、スケジュールのところで、他の項目は一応４年間、３０年度までの４年間の間に実施というのが何かしらあるのですけれども、この１６ページのこれはいずれも平成３０年度を検討で、３３年までずっと検討を継続するという書き方をしてあるので、ずっと検討するのかということになると、やはり何かこの項目で、１－１－１の項目で４年間の間に実施する項目というのは本当にないのかということを改めて確認をしていただきたいと思います。本当に何もないので４年間検討を続けますというのであれば、ちょっと個票に載せる意味が薄いのではないかと思いますが。

○事務局　全てを載せられるかどうかわかりませんけれども、もう少し踏み込んだ表現ができるものはないかということで、もう一度担当課の方と調整をしてみたいと思います。ありがとうございます。

○会長　他に何かございますか。

○委員　今の参考資料１１の１－３－３の②のところなのですけれども、前回、現状値がまだ分からないということで空欄だったと思うのですけれども、改めて今回見て８．１４％、それが４年間で１００％というのは本当に大丈夫なのかなというのはちょっと心配です。

○会長　これは事務局の方はどういうふうに思っていますか。

○事務局　そうですね。前回集計中ということで今回出てきた数字、その集計結果が完全に出る前に担当課としては１００％と定めていた状況でございます。ただ、現状かなり乖離がございますので、こちらの目標値が現実的に掲げていけるかどうかというところは、再度、担当課の方に確認をしてみたいと思います。ありがとうございます。

○会長　その際に併せて３１年度はどれぐらい、３２年度はどれぐらいと、段階的な目標を示してもらいたいです。

○委員　済みません。ちょっと改めて見て思ったのですけれども、１７ページの「ホームページの利便性の向上」とか、１９ページの「様々な情報提供媒体の活用」ということで、ソーシャルメディアとかスマホとかツイッターとかあるじゃないですか。ここは情報管理課さんは連携されるのですか。

○事務局　そのベースとなる部分につきまして、広報課で整備をする、環境づくりをするというところなのですけれども、その関係課といたしまして、情報管理課といいますより、具体的に使う課として、例えば、市民協働の部署ですとか、経済観光の部署ですとか、そういったところが取り組めるような、まさに下支えの部分を広報課の方で担っているという状況だと思います。

　ただ、その具体的に使用する課は今後も増えていく可能性がありますし、そういったところを庁内の色々な部署がチャレンジできるように、準備、環境を整えるという役目を広報課が担っているという状況です。

○会長　いや、委員がおっしゃりたいのは、広報課がちゃんと一番関連の深いところと情報管理課と協議した上で、ちゃんと内容を詰めた上でこの計画に挙げるべく挙げてきているのかというところだと思うのですよね。そういう意味で、むしろ関係課で載ってないと、広報課のみで考えて挙げてきたのではないか、その点が行政計画として載せる以上、本当にちゃんと万全の調整をした上で挙げてきているのかということの確認のご意見だと思うのですが。

○事務局　システムの関係で情報管理課の方が積極的に関わっているといいますか、そういったことの必要な取組かそうでないかとかはちょっとあると思うのですけれども、その点については、もちろん庁内での連携は図っていると思うのですけれども、その関与の度合いも含めまして、もう一度広報課の方に確認して、場合によって情報管理課の方の関わりが特に深いということであれば、この計画表の関係課の中で追記をすることも含めて検討したいと思います。

○委員　いいですか。この表を見ていて、先ほどもちょっとどなたかがおっしゃったのですけれども、「継続、継続」というのが３１、３２、３３と続いていますよね。これは３０年度に全部のことをやって、それをずっと継続するのか、それともこれだけの項目を３１年とか３２年とか３３年でばらしてやるのか。本当これ、そういうふうにばらして書いてある部署もあるし、１個だけ書いてそれを全部継続でしているところもあるし、何となく全部継続というのは違和感があるのですよね。

だから、本当の理想を言うと、このやる実施項目によって、順番にこれを全部やるとこの目標値を達成するとしたら、年度ごとにやると平成３３年度のところを見ていて、これだったら行くのだなという感じがするのですけれども、これを見ていると目標値が最初は３０年度で全部やってあとは継続で、これだと全部３０年度でいってしまってあとは継続するのかな、よく分からないのですよね。非常に奇異に感じます。

○事務局　今のご指摘でございますけれども、例えば、１７ページのところですと、「検討」という項目ですとか、「実施」、または「運用・見直し」という項目がございます。１つ前のページのように検討だけですと、まさにそのまま全部検討していると読まれてしまうのですけれども、例えば、「検討・実施」ですとか、「運用・見直し」というのは、ある段階までは検討していて、ちょっと現時点で４年間の中でどこというのははっきりしない状況でございますけれども、その環境が整った段階で実施に移るという項目だと思います。他のページで、１９ページについても同じように色々な項目があるのですが、ここは基本的には毎年度それぞれやっている内容がまとめて書いてありますので、ある年度にはやらなくて、ある年度にやるということは、基本的にはない項目が多いと思います。ただ、１９ページで言いますと３１年度の一番下の方は便利帳の発行は数年に１回という形で区切っているので、その年度だけ書いてあるという項目もあるという整理でございます。

○委員　それだったとしたら、今の説明だとしたら、検討が３０年度で３１年度はこれについて実施なら分かるはずなのだよね、実際には。そうすると、見ていて「ああ、なるほどな」という感じがしますよね。

○事務局　今の委員さんのご意見のとおりだと思っています。例えば、１８ページのスケジュールの一覧のところですと、２つ目の項目は「検討・実施」が初めの３０年度に書いてありまして、その後もそれが「継続」ということで、どこかでタイミングが整ったところで実施に移る、検討しつつ、実施にどこかのタイミングで移るという予定となっております。本来ははっきりこの年度まで検討も行い、ここの年度から次の取組に移るというのが細かく計画として詰まっているというのが理想だと思うのですけれども、現時点で全部の個別計画がそういった状況ではないという状況でございます。初めの方の会議でもあったように、そういった計画の詰まり具合といいますか、精度も含めて現時点ではある程度実施する項目の具体的な年度まで落とし込めていないものについては主要には位置付けないという整理等をしている状況です。

○会長　気になるのは、広報課と政策課ですね、はっきり言うと。この２つの課が特にそ

ういうパターンが多いので、もう少しきめ細かく詰めてくれないかということを最後にお願いしたいと思います。

○委員　１６ページのところで、今回進行管理というところを新しく加えましたというところは最初ご説明があったと思うのですが、その中で市長を本部長として副市長、教育長及び全ての部長職で云々というところで、進行管理を行いますと名言されていますよね。その際に逆に言うと、市長、副市長、あと諸部長は、これを見てどういうふうに評価するのかというところが、回り回って結局市の方々の中でちょっと進行管理が上手くいかなくなるのではないかなという懸念もあわせて感じるのですけれども、どうですか。上期もちょっとこの項目の見直しをした時に、「継続、継続、継続」とあったので、そこはこまめに年度ごとに何をやるのだというのをできるだけ書いた方がいいと思いますと私申し上げた記憶があるのですけれども、その辺は評価の時の困らないのですか。

○事務局　今のご意見はこの間の会議でもご指摘いただいた点で、そのとおりだと思っているので、別途今回は指標等の設定をしているのですが、１６ページのように検討が続いていますと、その実施内容だけを見てどの段階でできた、できないという評価は確かに難しい点はあるかと思います。ですので、やはり今ご意見をいただいた特に広報の部分ですとか、政策の部分で、もうちょっと詰め切れる部分については、どの年度を見据えて実施まで持っていきたいのかという観点から、少し改善できる点については改善をしていきたいと思っております。

○会長　よろしいでしょうか。それでは第１章のところについてはよろしければ、次へ進めたいと思います。

第２章のところをお願いします。

○事務局　それでは参考資料１１をご覧いただきたいと思います。２ページのプラン番号２－６－２「計画的な定員の管理」でございますが、「スケジュール」欄につきまして、「平成３２年度の美好保育所の休止･廃止の表現が保育支援課の個別プランと合致していない」こと、及び「平成３３年度の業務量調査の検討時期について、政策課の個別プランのスケジュールと整合が取れていない」ことに対するご指摘を頂いたことから、改めたものでございます。このほか、「指標」欄の注釈の表記につきまして、他の個別プランと体裁を統一すべく、修正いたしました。

なお、これ以外に、職員課が担当いたします、ワーク・ライフ・バランスに関する個別プランに対しまして、「超過勤務や時差勤務に関する指標の追加を検討してほしい」とのご

意見を頂き、担当課で検討いたしました。しかし、超過勤務に関する指標につきましては、前期計画期間中に集中的に取り組んで一定の成果が出ており、改めて指標を設定して強調した場合には前プランと重複するほか、今回の方向性と齟齬が生じることから、次期計画期間中に実施いたします業務量調査の状況等を踏まえて、平成３４年度以降に改めて検討いたします。また、時差勤務につきましては、今年度は夏季の朝方勤務の試行を終えたばかりのため、どのような指標を設定した場合でも、現時点で現状値がなく、適切な目標値が設定し難いという理由から、追加は難しい状況でございます。

以上でございます。

○会長　では、今の変更点についての説明をしてもらいましたが、ページで言うと２７ページから４０ページまでですね。この項目についてご質問やご意見があればお願いします。

私の方から質問ですが、３５ページのＰＰＰ／ＰＦＩですが、大分ヒアリングの時にやりとりをしたわけですけれども、その後、この計画期間中に、要するにもう少し具体化、どういう時期にＰＰＰ／ＰＦＩについてをやるのかということを、もう少し具体的に詰めてもらった方がいいという話をこちらからしたわけですけれども、その後、原課の方はそれを踏まえてどういう考え方を示しているのでしょうか。

○事務局　こちらのＰＰＰの関係は、第５回の協議会の中で色々質疑をした中で上手く答えられていない点があったと思うのですけれども、担当課の方では、やはりこういった優先的検討に関する体制の整備・構築というところはまずやらなければいけないというのが第１点で、その点については、スケジュール欄の１項目目として記載をしているところでございます。

それから、それに基づく具体的な管理という形で、現状、指標欄の目標値として２事業想定がございます。ただし、前回お答えをさせていただいたとおり、こちらの工事や改修自体がこの計画期間に入ってくるものではないのですけれども、その先の工事・改修に向けた事前の準備が２事業入ってくるという整理で、それがスケジュール欄で言いますと、下の項目で、こういった体制に基づく状況の管理等も実施をしていくものが出てくるのではないかという状況でございます。

○会長　そうすると、今の説明だと、目標値の３３年度の２事業というのは、２事業完成ということではなくて、２事業についての構想を何か固めるとか、持つことを３３年度までにやるということですか。あの時聞いたのは、ＰＦＩについては相手と交渉、着手してから完成までに平均で２年はかかるので、だから、３３年度までに完成が２事業だとする

と、３１年度にはもう交渉を始めないと間に合いませんよという話をしたわけですね。それについては、今のお話だとこれは完成ではないということなのですか。

○事務局　会長がおっしゃるとおりです。完成については３３年度より先の話でございますので、その新しい優先的検討規程に基づく制度に関する着手がこの４年間の中で２事業出てくるという想定であると思っています。

○会長　ここで書いてあるスケジュールの日本語が極めて分かりづらいのですけれども、体制構築とか、進捗状況の管理というのは、何を意味しているのですか。例えば、構想策定とか、もう少しわかりやすい表現で言いあらわせないものかなと思いますが。

○事務局　体制構築で言いますと、内部の規程など色々整備する内容があるかと思いますので、確かにこちらの今のスケジュール欄、実施内容欄では、その具体的な項目は少しイメージができない状況かと思いますので、そこは少しブレークダウンして書けるものであるかどうかを改めて確認をしていきます。

○会長　そうですね。もしも率直な話、４年間で何をどこまでできるかめどがないということであれば、この独立した個票で設ける意味があるかどうかということになりますけれども、その疑問がどうも払拭されないので、そこはどうなるのですか。

○事務局　今回、主要に位置付けない幾つかの事業については、実際には今後の４年間をかけてやっていこうという意思はあるけれども、その具体的な内容にたどり着いていないというものが幾つかあると思っていまして、これもその１つなのかなとは思っています。

　ただ、そういうものではあるため今後進行管理をしていく中で適宜、この件についても話題に取り上げて、ちゃんとやっていくぞというところの取組はしていきたいと思いますので、項目としては残しておきたいと考えております。

○会長　その話を原課とよくしていただいた方がいいと思いますけれども。他にございますか。

○委員　今、会長さんがおっしゃったＰＰＰは、市の行財政の改革の中でも、かなり重要なポイントを占めている部分ではないかと思います。市というのはやはり市でしかできない、教育とか福祉とかインフラとか税の収納業務とかあるのですけれども、市ではなくてもできる仕事、民間でもできる仕事、それから、民間がやった方がいい仕事というのはあるはずなのですよね。それをなるべく市の業務に集中して、そうでないのはなるべく民間の方に移行して、そういう意味でＰＰＰってすごく、私もＰＰＰとＰＦＩに関心を持っているのですよ。だから、これはかなり本丸に近いところではないかなと思っているので、

これは２事業などは多分目星もどこかにあるのではないかと推測はして、書いてはいないけれども、あるのではないかなと思っているのです。でなければ、これは２事業って書かないだろうと、ちょっと前から見ていたのですけれども。一番ポイントになるところではないかなと思ったところなので、ちょっと関心を持って私もこういうところの表現を、どうなのかなと思って気になるのですけれども。

○会長　そういう委員が期待をしているということも踏まえて、現課にもそういうことも伝えてもらって、やはり当然府中市としては進めていくべきものだと思うので、だから、もう少し詰めてほしいということで、意見もあるということを原課の方にもよく伝えてもらいたいと思います。

　他にございますか。

○委員　２９ページの補助金のところなのですけれども、目標値が色々あって、なくした形になっていますけれども、前回も申し上げたのですが、過去色々点検を何度も行って、見直しが必要なり、削減が必要という結論は繰り返し出されているのですけれども、それを実際の補助金を設定というか、見直しのところに反映できてない部分もあったのかなと。そこがちょっと問題かなという印象を受けていまして、これは目標値を設定しないと、見直しをしただけで目標が達成ということになると見直しの意味がないので、私の１つのご提案としては、見直しが必要とされたもののうち、ちゃんと見直しがされたものの割合みたいのが、それは１００％が目標なのですけれども、そういう形でそういう実際に見直しをしたという実績の率というものを算定できないかなと思うのですけれども。それでないとちょっと実効性がまた同じ繰り返しになってもと思いまして、算定可能かも含めていかがなものでしょうか。

○会長　そうですね。大変重要な点だと思いますが、いかがですか。

○事務局　今の指標につきましても、具体的な中身まで含めてのご提案だと思いますので、今いただいた内容で担当課の方に確認をいたします。可能であれば、進捗の度合いが測れる指標を追加できた方が良い思っておりますので、そちらの方向で担当課とも調整をして、改めて回答させていただきます。

○委員　はい。

○会長　そうですね。やはり主要事業で目標値がバーというのは、さすがに寂しいですね。もっとしっかりこの点は検討していただきたいと思います。

　他にございますか。よろしいですか。

とりあえず、では次へ、第３章に行きたいと思います。３章は特に変更点はないということですね。何か３章で概要について事務局からありますか。

○事務局　３章については、前回の会議では１つも取り扱っておりませんので、修正という形の資料はございません。

○会長　では、４１ページから４４ページまで、この部分で何かご質問・ご意見がございますか。先ほど、委員から３－８－１についてご意見をいただきましたけれども、ほかに何かありますか。

○委員　ちょっとあまり意見ということではないのですけれども、電子決済率が０％ってちょっとびっくりしたのですけれども、普通企業でほとんど電子決済をやっている、何年も前から。もっと早くやれなかったのかなと。それともやっぱり市の公の文章はこういうことがあまり向いてないのかなと。すごくスムーズですよ、電子決済でやると。と思うのですけれども、何か理由があったのかなと思いまして。

○事務局　ご質問を７ページの表４の一番上がちょうどこちらの文書管理システムの関係でございまして、現プランでは平成２８年度から運用を開始するつもりだったのですが、色々事情があって遅れてしまっているという状況でございます。

ただ、次の計画の開始となります平成３０年度からはこのシステムの導入をするという形で、今年度も丁度準備を進めている最中でございますので、こちらの実施は若干おくれたという経緯がございますけれども、３０年度以降はこのシステムの導入は実現できるという状況です。

○委員　質問なのですけれども、４１ページの取組７で文書管理システムだけがここに取り上げられているのですけれども、総合計画を見ると、もっと色々選挙の話とか、色々取組しなさいというのがいっぱい挙がっているのですが、これは他の部署で計画を立てられるので、行財政に関するものは文書管理だけということでよろしいでしょうか。

○事務局　取組７の安定的な行政サービスの提供につきましては、選挙ですとか、秘書部門ですとか、市にまつわる様々なものがまとまって、総合計画の中では記載されているという状況でございます。ただ、行革の計画に抜き出してプランを立てるというほど、規模の大きなものがあまりなかったということでございます。定例的に行っていうようなものについては、先ほどの議論ではございませんけれども、ずっと継続の項目が続くため、初めから対象にする必要性はそれほど高くないかなということで、そもそも掲載をしていないという状況でございます。しかし、総合計画にも掲げておりますので、こちらの取組の

一環としてそういう選挙ですとか、秘書ですとか、幾つかの項目については引き続き継続的に市政を運営するために続けていくというものでございます。

○会長　ではよろしいでしょうか。

それでは次の第４章の方へ移っていきたいと思います。では、説明お願いします。

○事務局　それでは、参考資料１１で前回から変更した箇所につきまして、説明をいたします。３ページのプラン番号４－１０－１「事務事業への民間活力の導入　②市立保育所の民間活力活用の計画的な遂行」でございますが、こちらは「民間への移管と基幹保育所の充実と待機児童への対応の関係が分かり難い」、「このプランが批判を招かないように表現を工夫してほしい」といったご意見をいただきましたので、「指標」欄に基幹保育所の注釈を付したほか、「過去の経緯」欄や「実施内容」欄の記載内容を修正いたしました。

最後に、４ページのプラン番号４－１１－１「公平かつ適正な収納事務」でございますが、こちら「クレジット収納の実施が確定していないのであれば、表現を工夫するべき」とのご指摘を頂いたことから、「実施内容」欄及び「スケジュール」欄の表現を修正しております。このほか、「指標」欄の表記につきまして、他の個別プランと体裁を合わせる形で修正したほか、「現状値」欄につきましても、直近の平成２８年度の実績でございます「９７．６％」に置き換えております。

以上でございます。

○会長　ありがとうございました。それでは４５ページから最後の４ですね。６３ページまでの間について、ご質問・ご意見があればお願いします。

最初に私から質問ですけれども、今の収納率の向上で、現状値から目標値に上がると、９７．６％から９８．５％に上がるということは、先ほど冒頭の表の６の財政見通しには、これは反映されているのですか。これも反映されていない。

○事務局　されていないです。

○会長　されていない。それから、そういう意味で言うと、やはり表の６の注記というのをかなりしないとあれですよね。ただ、実際問題、率直なところ、反映できないですか。表の６にそういう見直しを。

○事務局　この表の６は総合計画を作った時の表なのですけれども、これは基本的には現状のまま推移すればという見通しで作られた表でございます。ただ、そうしますと、歳入、歳出の乖離が生じるので、それを一番下の行にそれぞれの年度の削減目標額ということで入れておりますので、今回この行革プランの取組を行うことで、この削減目標額を最終的

にはゼロにしていくことができれば、理想的な結果だと思っています。今回やっていく内容というのは、その見通し自体をというよりは、この削減目標の部分を埋めていくような位置付けで取り扱いたいとは思っているところではございます。

○会長　そこで、その４７億を埋める中で、この後期プランに載せる行革努力でどれぐらいはカバーできるかということを示せれば理想なわけですが、それをできればやった方がいいわけですけれども、そこはどうなのでしょう。

○事務局　現行の行革プランの中では、財政見通しの下に概算ではあるのですけれども、例えば、この取組で１億とか２億とかという削減があったという形でございます。そういう形で表記をするのかどうするのかという議論はあるかと思うのですけれども、現時点で出ているものと出ていないものがございます。基本的には入れてないものが多いと思うのですけれども、反映しているもの、していないものというのは整理が必要だと思っておりますので、細かい単位がどこまで出せるかなど、精度の問題はあろうかと思うのですけれども、その点については調べて、次回ご報告をさせていただければと思います。

○会長　そうですね。仮にこの計画本文には記載できないとしても、この協議会には、一応試算としては行革努力でどれくらいは歳入の増、歳出の減ができそうだというのを示してもらって、それを最後に数字では入れ込めないかもしれないけれども、こういう表現では表現できるのではないかとか、そういう検討をやるというのも１つのやり方だと思いますけれども。ですので、そういう点を含めてちょっと検討してもらえればと思います。

　それではこの第４章について、ご質問・ご意見があればお願いします。

○委員　４－９－１の４６ページの「財政状況の定期的な提供」のところなのですが、ホームページをちょっと拝見すると、色々な情報があったのですけれども、財政状態のところで、一番詳しいのが平成２６年のが最新版になっているページがあったりしたのですが、適宜設定ですかね、情報開示のいつの段階で出すかというところは、毎年結構ぶれがあったりすることがあるので、ある程度何か月以内に、会社だと何か月以内に開示しなければいけないという規則があると思うのですが、市の方ではいつまで、何か月以内に、決算が閉まってからどれぐらいで開示をするというような、ホームページ上の話なのですけれども。

○事務局　予算や決算の関係の公表のタイミングでございますけれども、議会等に報告した後に速やかに広報ですとか、ホームページの方で周知をするというような状況が多いと思っております。ただ、場合によっては、その時期が決算の議会後にそろうかそろわない

かというのはちょっとあるのですけれども、原則はそれぞれ予算関係の内容ですとか、決算関係の内容につきましても、報告する時期が定まっておりますので、その年度が前後するということはないのではないかと思っております。

○委員　見たページが色々、最新なのでしょうね。適時に上期、下期で財政状態のページはちゃんと最新のものまであったのですけれども、もう１個決算の状況というところのページを見ますと、最新のものが平成２６年になっていたので、ちょっとそこはホームページの運用の仕方があるかもしれないですね。

○事務局　その点については確認いたしますが、多分基本的には決算が固まって議会等に報告するタイミングが終わりましたら公表する形だと思います。今のその点は確認をして、すぐにホームページの方の修正をさせていただきます。ありがとうございます。

○委員　はい、お願いします。

○会長　決算上は翌年度の９月の議会で認定を受ければ、もう公式なものとしてどこへでも出せることになっておりますので、そういう意味で言うと、翌年度以降の、翌年度９月以降であれば、載っていてもおかしくないということにはなると思います。

○委員　今現在、平成２８年のはまだ、今見たとしたらどこかに出ているのですか。

○事務局　ちょうど先月の議会の方で決算の承認をいただいたところでございますので、公開の処理等を１０月に入っていたしますので、速やかにやるということです。ただ、財政の指標など、場合によっては時期が少しずれるものがあるかと思うのですが、ただ、それについても２７年度のものが公表されていないということはちょっとあまりないかと思うので、今ご指摘いただいた点をもう一度確認をして、必要であればホームページのメンテナンスをしたいと思います。ありがとうございます。

○会長　他にございますか。

○委員　５７ページの「受益者負担・公私負担の見直し」の③の「公共施設の駐車場の有料化」の現状と課題のところを見ていると、ちょっとさかのぼって恐縮なのですけれども、７ページで、会長の方で前期行財政改革推進プランでおくれたもの３件について、遅れた理由というところを付け加えましたということで、これに相当するのは多分４－１０－８という個別プラン名称のところの施設の駐車場の有料化というところだと思うのですけれども、遅れた理由は、「近隣市や民間事業者の状況等を踏まえた検討に時間を要したため」と書いてあるのですけれども、ちょっと整合性が取れていないのかなという感じがしたのですけれども、ここはいかがでしょうか。

○事務局　こちらにつきましては、今回、事前に資料を送付した段階で、会長の方から７ページの表４についてご指摘をいただいて、担当課に確認をして、遅れた理由等を追記している状況でございまして、大変申し訳ないのですけれども、こちらのプランの３をつくった時に、そこまでちょっと細かい内容が反映できていないというのがございます。こちらは表現がずれるとよろしくないと思いますので、ここは整合がとれるように修正するようにしたいと思います。

○委員　５５ページの「公共施設の使用料の適正化」というところもちょっと微妙に民間事業者のサービス状況を踏まえてとか書いてあったりするので、ここも併わせて見ていただけますか。

○事務局　分かりました。今の点も同じでございますので、整合性が取れるようにしていきたいと思います。

○委員　５０ページの「下水道事業特別会計」なのですけれども、３２年度から公営企業の会計にするということで、そういう計画は分かるのですが、何か行財政改革推進プランに載せるのにちょっと違和感があるかなと。これは私の個人的な感想かもしれませんけれども、これは単に公営企業の会計に移行する計画、それを載っけただけなのかなと、そんな風に思うのですけれども、この点は。

○事務局　確かに今ご指摘のとおり、実施内容等を踏まえますと、今回の４年間の中で一番大きな動きが、制度改正に対応するということになっている状況だと思います。ただ、一般会計とのお金のやりとりもございますし、行財政改革といいますか、行財政運営上は欠かせない項目だと思っておりますので、掲載すること自体は継続したいと思っているところでございます。ただし、確かに視点としては、先程の国の助言通知もありましたけれども、そういった公営企業会計への移行という対応の部分がかなり強調されてしまっているという点はあるかと思っています。

○会長　少し表現を充実したらどうかと思うのですけれども、要は下水道の貸借対照表の手法を導入して、うまく負債の管理等もされて、資本や負債の管理を正確に行うとか、その相通ずるところはそういう少し企業的な会計の発想を反映することということを目的としてとか、そういう形で少し民間経営的なことをやるのだよという補足の説明を加えた方がいいかもしれません。ちょっとその点は検討してもらえますか。

○委員　６０ページの４－１１－２、「市に裁量権のある税率や課税対象、課税区分の見直し」のところなのですけれども、こちらの中身を見るとできません、中断しました、難し

くなりました。検討しますで終わっているところがありまして、多分これできたのかできてないのか評価するのもなかなか難しい項目なのかなと思うのですけれども、こちらはどう、このまま残していいのかどうかというところについて、ちょっと疑問があるなと思いましたので。

○事務局　こちらの内容は、前期の計画にも掲載しております法人市民税の税区分の見直しができるかどうかという内容となっております。ただ、実際にこれをどういうタイミングでやるかというのが、景気の動向ですとか、諸般の事情等を考慮して決めていくものになりますので、ちょっと他の個別プランと比較しましても、この時期にということの明記がなかなか難しいという状況でございます。

　ただし、前期のプランにも掲載していたこともございますので、削除するにもそれはそれなりに説明といいますか、しっかりとした理屈が必要となっている中で、なかなかそこの対応がしきれないという状況で、主要の区分を外してプランとしてはまとめているというような、状況です。

○会長　これは市民税課としては、後期も項目としては残しておきたいという、そういう考え方ということですか。

○事務局　担当課の強い意向があるかどうかというよりは、事務局として色々な各担当課と調整する中で、現プランの方に載っているものの中で整理縮小ですとか、削除するものについては、きちんと落とす理由が明確になるものかどうかというところを確認いたしました。なかなか他の現プランに載っている個別プランとの整合性の中で、これを削除するというのは難しいという判断をして、現時点では継続で残すような形でまとめた状況です。

○会長　過去の経緯のところで、２区分への移行が中断した、ここで切れてしまっているので、それでちょっとやや違和感を感じるのですね。それで、今後どうしたらいいのか、今後の推移も見きわめてこういうふうにしていきたいとか、何か姿勢を書いてもらうといいかもしれないですね。そういう方向でちょっと検討してもらえますか。よろしいでしょうか。

○委員　先ほどの下水道のことなのですけれども、現状と課題のところに、「総務大臣通知により」云々と書いてあるのですけれども、確かにそういった背景はあると思うのですけれども、やはり府中市独自の考え方としてこういった健全財政と経営基盤の強化、財政マネジメントを向上させるという市の取組として行うのだということを、そういう印象をつけた方がいいと思うのです。国から言われたからということではなくて、地方分権の趣旨

にも合うと思いますので、ここのところは要らないかなと思います。
○事務局　削除の方向で考えたいと思います。ありがとうございます。
○会長　大体よろしいでしょうか。そしたら、これについては割と分量もありますので、委員の方々から何か追加の意見等があれば、少し受け付けるという形にしたらどうかと思います。事務局の事務的なスケジュールもあると思いますけれども、それを設定してもらって、今日言い残したこととか、指摘し忘れたことというのがある可能性がありますので、それは事務局の方にメールで送っていただくと、そういう形にしてもらいたいと思います。
○事務局　次回の会議が２３日になりまして、その１週間ぐらい前に資料をご送付するスケジュールを考えております。あとは、財政課で担当しているものが少ない状況で、それぞれの担当課との調整にちょっとお時間をいただきたいと思いますので、今週金曜日ぐらいまでに何か追加の意見ですとか、特に文章の形でご提案をいただけるというものがあれば、それを受けて担当課の方と調整をして、その翌々週の月曜日以降の委員の皆様への最終回の資料の送付に間に合わせるように進めたいと思います。よろしくお願いいたします。
○委員　ちょっといいですか。言っていてしつこいと言われそうで、あまり言いたくないのですけれども、スケジュール、さっきから「継続、継続」とたくさんあるものを見ていて、ちょっと私、気になるのですけれども、最初の答申で調査をしたり、検討をしていますと、ＰＤＣＡサイクルというのは、最初の年に検討してプランしたら次にＤｏがあって、Ｃｈｅｃｋがあって Ａｃｔｉｏｎがあるのですよ。それを書いているスケジュールがほとんどないのですよね。だから、ＰＤＣＡサイクルの充実と書いてあるから、スケジュールではＰＤＣＡのサイクルが回っているのがほとんどないのですよね、見ていて。全部はそうではなくてもいいから、１個か２個ぐらい、ちょっとＰＤＣＡサイクルが回っているスケジュールが欲しいなという気がするので、できたら、急に来週にと言っても間に合わない。来週にそういうふうにちょっと１個ぐらいは欲しいなという気がします。済みません。
○会長　今、委員に大変ご配慮をいただきながら、大事なご指摘をいただいたと思いますが、事務局はいかがですか。
○事務局　今の内容について、最終の４年間で最後のＣｈｅｃｋ、Ａｃｔｉｏｎのところまで行けるものと、馴染まずにある年度に実施というところで回っていくものがあると思います。しかし、基本的な考え方といたしましては、実施してみて、想定とのずれ等を検討しながら改善をしていくというのが行政としては当たり前にやっていくべきことだと思っておりますので、先ほど宿題としていただいております、継続のところをもう一度確認

をして、具体化できるものについては修正する中で、改めて今いただいた視点についても踏まえて考えてみたいと思います。

○委員　お願いします。

○事務局　今回個別プランの中に色々書き込めるかというのは別にしたとしましても、この行革推進プラン全体としてはここにプランという形で計画が載って、これに伴って各課は実施をして、実施した内容は行革本部における進行管理の中ででチェックをして、そのチェックに伴った次のアクションという、全体としてはこの行革プランはＰｌａｎ・Ｄｏ・Ｃｈｅｃｋ・Ａｃｔｉｏｎの流れで進めることを考えております。

○会長　今、委員も言われたように、１つでもそういうのがあった方がいいとは思いますので、例えば、その一例で言うと、１９ページの主要施策でそういうのがあった方がいいと思うので、この１９ページの１－１－４とか、こういうメール配信とかＳＮＳとか、割と今のＰｌａｎ・Ｄｏ・Ｃｈｅｃｋ・Ａｃｔｉｏｎが組みやすい事業ではないかと思いますので、こういう辺りで、あとはもう少し詰めればできそうな感じもしますので、そういうものでちょっと最後の一努力を関係課の方にもしていただきたいと思うので、ちょっとそういう点も検討してもらえますでしょうか。

よろしいでしょうか。では、全体についても大体よろしいですか。

どうもありがとうございます。大変活発なご意見をいただきまして、貴重なご意見を数多くいただいたと思います。それでは、一応本日のこのテーマについては以上といたしたいと思います。

それでは、次に議題２の「その他」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局　それでは、事務局から１点につきましてお伝えいたします。最終回となります次回の第８回会議の日程等の確認でございますが、１０月２３日月曜日の午前１０時からこの部屋の隣の第３会議室で開催いたしますので、ご出席くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○会長　では以上でございますが、ご質問・ご意見はございますか。よろしいですか。

それでは、以上で本日の会議を終わりたいと思います。長時間にわたり、お疲れさまでした。

――了――